



人口減少下でも持続可能な「まちの形」と「暮らし方」に関する総合的研究と実践

法文学部 教授 飯野 公央

日本の地方都市は戦後の人口減少と経済成長を背景に郊外へと拡散していきました。それに伴い人々の生活を維持するための道路や上下水道といった社会インフラの整備も進みますが、最も大きな変化は人々が過度のマイカー依存の暮らし方を選択し、行政もそれを前提にまちづくりを進めたことです。これは暮らしやすいまちをどう作るかという都市計画よりも、住宅取得やマイカー購入が経済成長に果たす役割の方を優先した結果です。ところが低成長と人口減少等により地方財政が逼迫すると、老朽化したインフラの更新問題や買い物難民への対応など、持続可能な「まちの形」とそこでの「暮らし方」を問い直さねばなりません。

飯野研究室では、過度なマイカー依存から脱却し、公共交通中心のまちづくりや社会インフラ・公共施設等の立地適正化問題に取り組み、人口減少の中でも豊かに暮らせるまちづくりの研究と普及・啓発に向けた実践活動を行っています。

第2号 3 K 新聞 平成24年10月10日

3 K 新聞

「数字」を見る利用者の変化

松江市バス利用者の推移

利用者の数(人)	81	85	89	93	97	01	05	09	13	17	21	25
利用者数	900	772	689	613	571	497	427	357	288	218	148	65

※年度次 ※日/月/日付 ※2月1日時点

年代別平均年間バス利用者の比較

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	10代
利用者数(人)	42	38	30	24	17	11	8	4	2

※年度次 ※日/月/日付 ※2月1日時点

ひと月400円がバスを救う！？

松江市のバス事業が赤字なのはみなさんご存知ですか？

松江市のバス事業が赤字なのはみなさんご存知ですか？

松江市のバス事業が赤字なのはみなさんご存知ですか？



公共交通の利用促進の一環としてバスの利用マナーを自作の紙芝居での啓発するゼミ生 (左：イオン松江店、右：バス祭り会場)



公共交通の重要性を啓発する研究室発行の3K新聞

いち早く人口減少に直面した海士町の公共施設総合管理計画の取り組みを調査するゼミ生